



TITLE:

工学研究科技術部が提供する共通サービスの紹介

AUTHOR(S):

原田, 治幸; 浅野, 義直; 木下, 定; 中川, 俊幸; 八田, 博
司; 服部, 俊昭

CITATION:

原田, 治幸 ...[et al]. 工学研究科技術部が提供する共通サービスの紹介.
京都大学工学研究科技術部報告集 2014, 11: 67-67

ISSUE DATE:

2014-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/193645>

RIGHT:



工学研究科技術部が提供する共通サービスの紹介

京都大学 工学研究科技術部

浅野義直、木下定、中川俊幸、八田博司、服部俊昭、○原田治幸

1 京都大学 工学研究科技術部について

工学研究科

地球系専攻
C-1 建築学
C-2 社会基盤工学
C-2 都市社会工学
C-2 都市環境工学

物理系専攻
C-3 航空宇宙工学
C-3 原子核工学
C-3 機械理工学
C-3 マイクロエンジニアリング
C-3 材料工学

化学系専攻
A-2 物質エネルギー化学
A-3 材料化学
A-3 高分子化学
A-4 合成・生物化学
A-4 化学工学
A-4 分子工学

工学研究科附属センター

B 情報センター
B 桂インテックセンター
EM 環境安全衛生センター
A-1 量子理工学研究実験センター
A-1 光・電子理工学教育研究センター

吉田(本部地区)

吉田工学部

地球工学科 物理工学科
建築学科 工業化学科
情報学科 電気電子工学科

宇治

キャンパスの移転

京都大学 工学研究科技術部に所属する技術職員は、3カ所のキャンパス(図1)で教育研究支援業務に従事している。工学研究科・工学部には、学部学生 2,345名、大学院生 2,056名が学び研究している。教員は429名、事務系の職員は約140名、教室系技術職員は41名(表1)が所属している。

工学研究科の吉田本部キャンパスから桂キャンパスへの移転事業は、10年前の電気系専攻と化学系専攻の移転に始まり、平成23年度の物理系専攻の移転をもって一部を残して、ほぼ完了した。その結果、工学部・工学研究科は、学部での教育を行う吉田本部キャンパス、大学院での研究と教育を行う桂及び宇治キャンパスに分かれることになった。複数のキャンパスで教育研究支援業務に従事することになった技術職員も少なくない。

図1 桂、吉田本部、宇治の3キャンパス

表1 技術部 構成員の内訳

	総合建設	設計・工作	分析・物質科学	情報	環境・安全・衛生
総合建設	9	1	1	7	0
設計・工作	6	1	3	1	1
分析・物質科学	9	2	1	5	1
情報	5	0	3	2	0
環境・安全・衛生	12	2	2	6	2
計	41	6	10	21	4

工学研究科技術部の発足

工学研究科技術部は改組によって2007年に発足した(図2)。

技術部発足にあたって、個々の技術職員が行っている通常のエデュケーション支援業務に加えて、技術部として工学研究科全体に対する「サービス」を提供することが求められた。

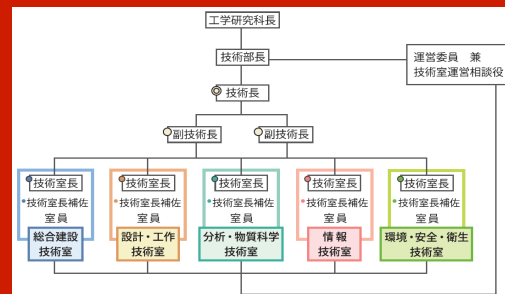


図2 工学研究科技術部の組織図

2 技術部が提供する共通サービス

表2 共通サービスの提供開始時期

共通サービス	提供開始時期
① 桂ものづくり工房	2008年11月
② 大判プリンター提供	2009年3月
③ 技術相談	2010年2月
④ 物品貸出	2012年4月

① 四つの共通サービス

技術部として提供する共通サービスの内容については、室長会議(技術長、副技術長、技術室長の8名で構成)を中心に技術職員全体で議論し、提供可能なものについて表2に示す通りに、順次実施に移してきた。

現在、四つの共通サービスを提供し教育研究支援を行っている。



図3 平成25年度版の宣伝パンフレット

② 宣伝パンフレットについて

共通サービスを周知する為に、年に1回、宣伝パンフレット(図3)を研究科内に配布して利用の促進を目指している。広報・編集委員会(技術職員で構成)が宣伝パンフレットの作成と配布を担当している。

③ 利用方法について

工学研究科技術部のホームページから申込む(図4)。

☆桂ものづくり工房の利用には、機械運転技術講習修了証の提示が必要である。

開設当時



現在



図6 桂ものづくり工房

図4 利用申込み手続きの例

④ 利用状況について

宣伝パンフレットの効果もあり、桂ものづくり工房と大判プリンターの利用者数は徐々にではあるが増加の傾向にある。(図5)

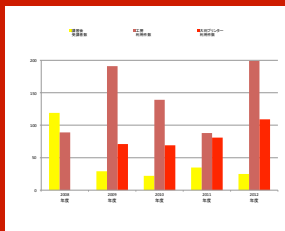


図5 利用状況の推移

⑤ 桂ものづくり工房の整備について

今年度の研究科長裁量経費(公募分)で「桂ものづくり工房整備費」が認められ、大型の旋盤などの工作機械や工具及び3Dプリンターを導入した。

今後も、設備などの拡充を図り共通サービスの充実に努めたいと考えている。